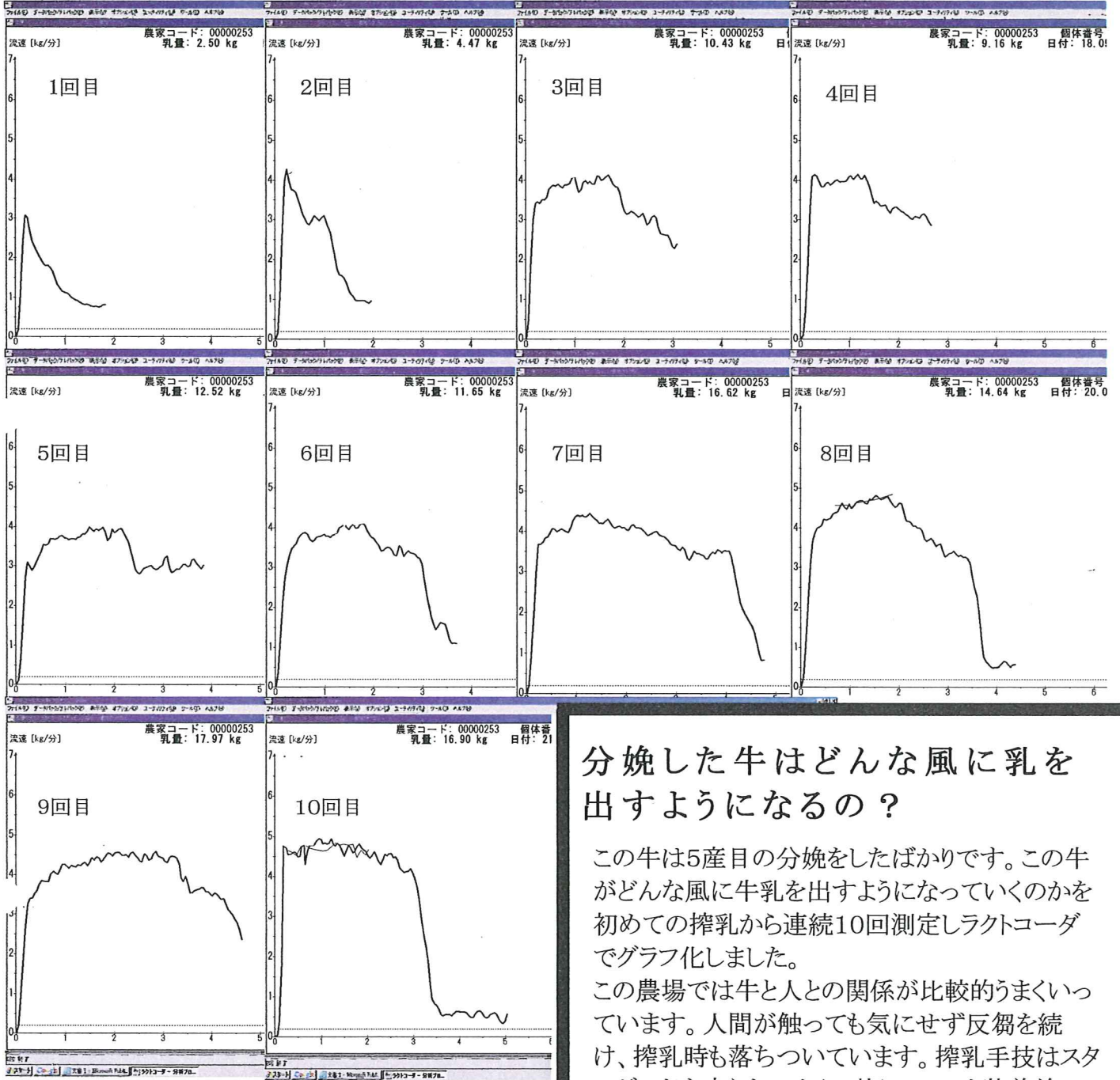


# 分娩直後の Milk Flow の変化

～経産牛の場合～



## 分娩した牛はどんな風に乳を出すようになるの？

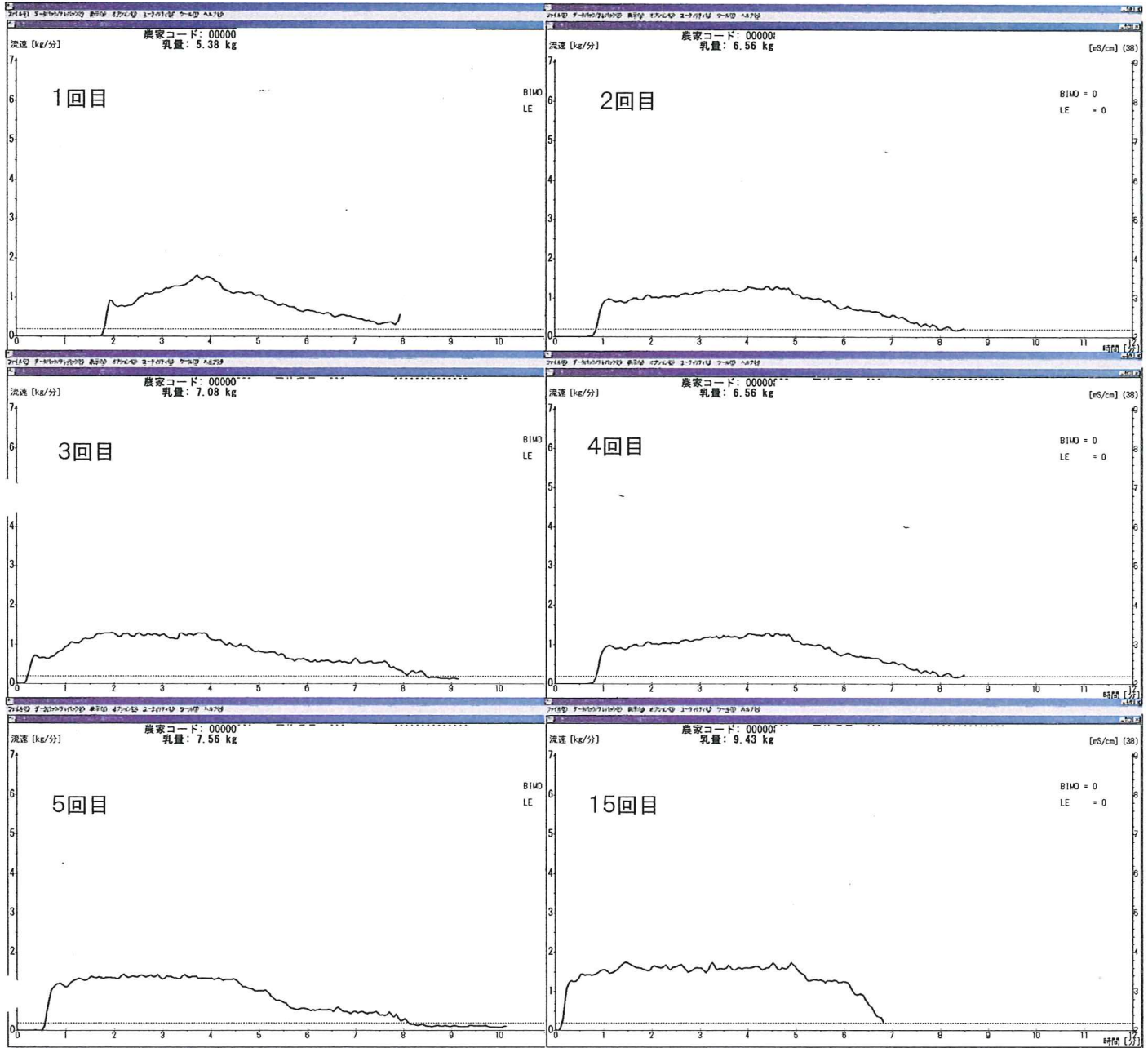
この牛は5産目の分娩をしたばかりです。この牛がどんな風に牛乳を出すようになっていくのかを初めての搾乳から連続10回測定しラクトコーダでグラフ化しました。この農場では牛と人との関係が比較的うまくいっています。人間が触っても気にせず反芻を続け、搾乳時も落ちついていて、搾乳手技はスタンダードを守られており、特にユニット装着前の

乳頭刺激は十分おこなわれています。それでも分娩直後の2回目までは乳量も少なく Milk Flow も不安定ですが、すぐに安定した泌乳を開始しているのが分かります。1分間当りの高い流量も特徴的です。分娩直後なのでもちろんバケツ搾乳されていますが、搾乳者はバケツをかけたならその場を離れず、なるべく早めにユニットを外すように心掛けており、牛も搾乳者も“超優秀”です。

分娩直後の牛はおおくの精神的肉体的ストレスにさらされています。ストレスはそのまま射乳反射の減弱や滞りにつながり、それらは“過搾乳”“搾乳時間の延長”“乳器障害”“乳房炎の危険性”“搾乳嫌い”等の好ましくない展開につながるでしょう。

上のグラフのような射乳の立ち上がりは比較的スムーズに立ち上がった例であると思います。

# 【とある初産牛の場合・・・】



## 初産牛が搾乳嫌いになる理由？

上のグラフは別の農場で分娩直後の初産牛の射乳状態を記録したものです。この農場の人と牛の関係は“よくあり得る関係(?)”とでもいいでしょうか・・・。この牛は分娩直後からキックノンを着せられ、パーラーに入ってくるのも一番最後でした。もちろん搾乳中の反芻はありません。

注目すべきことは、この農場では搾乳前の乳頭刺激とラグタイムは、ごく当たり前に守られているにも関わらず、1～5回目まで搾乳の搾りはじめにほとんど射乳していない時間があることです。またバケットミルクをかけたなら別の牛の搾乳をする

ためにその場を離れることで、不幸なことにこの初産牛は搾乳後半ほとんど乳が出ていないにも関わらず長時間ミルクをつけてられたままです。

つまり搾乳のはじめと終わりで乳頭に高い真空圧ストレスが加わることで、牛はきっと痛い思いをしていたと思われます。

このことは初産牛が搾乳嫌いになるひとつの理由になるのではないのでしょうか。

15回目(約1週間後)に測定したものでは搾り始めも改善され、自動離脱装置のおかげで搾り終わりもスッキリです。・・・依然パーラーに入ってくるのは最後でしたが。。。



分娩直後の牛を搾乳するときに注意すべきことが3つあります。

### ★(特に初産牛では)牛との関係を良好に保つ努力が必要！

分娩前の未経産牛を1週間に一度5分間ブラッシングするだけで、分娩直後の射乳が大きく改善された・・・なんていうイギリスの研究があります。

ストレスや恐怖を感じることで体内で分泌されるアドレナリンは射乳反射(オキシトシンの作用)を阻害します。

### ★搾乳前の乳頭刺激はより優しくより念入りに！

ラグタイムも何分と決めるよりは乳頭のふくらみ具合を目安に！

分娩直後は肉体的精神的ストレスなども手伝って、乳頭刺激と射乳までの時間に牛ごとのバラツキが多いようです。ミルカー装着直後の空搾りのないよう注意しましょう。空搾りされると乳頭は非常に痛みを感じます。

### ★どんな最新式のミルカーでもバケットに自動離脱はついていない！

分娩直後の牛はほとんど乳を出さない(or 出さなくても良い)ものと思って、バケットから目を離すのはやめましょう。特につなぎ牛舎の場合はパーラーよりも真空圧が高いので、離脱タイミングが遅すぎることで危険性はより高くなります。

分娩直後の牛には、搾乳嫌いにならないで、乳房炎にもならないで、これから1年間ヨロシクね、という気持ちで順調なスタートをきってほしいものです。

10月から診療の受付および往診体制を変更させていただいておりますが、きっと皆様にご迷惑をおかけしていることも多いのではないかと心配しております。

が、お蔭様でこの1ヶ月、私的には特に車の運転が非常に楽になったことを身にしみ感じており、以前のように神風のスピードを出すことも稀になったように思います。

また今までは診療などの用事以外で農場を訪れる時間を殆どつくれなかったのが、ここ数日いくつかの農場をプラプラすることができるようになりました。

そういう時間を使って更に皆様のお役に立つことができるように精進します。

ご協力に感謝いたします。